

# San-iku 通信



社会福祉法人  
賛育会

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

TAKE FREE

Vol. **40**  
2024 SPRING

## 賛育会2024年度方針について

社会福祉法人 賛育会 理事長 小堀 洋志



賛育会は2024年度から中期3か年計画「もっとも地域  
の課題に寄り添う賛育会」を実行します。昨年度までの3か年も  
同様の計画でしたが、コロナ禍により、賛育会のサービスを  
利用される方々のいのちに寄り添うことを最優先にしてきました。  
これからの3か年は感染対応の学びも活かしながら、  
地域の中で誰も孤独にしない、孤独にならない、皆が心を  
合わせ、隣人を大切にする働きを推進したいと思います。今年  
度も皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



### 2024年度賛育会年間聖句

「同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、  
思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。」

(新約聖書 フィリピの信徒への手紙 2章2節)



### 中期3か年計画



### 2024年度経営方針

#### 1. 知恵を育む:安全で質の高いサービスを継続し、地域ニーズ に対応できる職員を育成する。

- (1) 安全で質の高いサービスを提供する。
- (2) 出生児の遺棄・虐待等を防ぎ、幼いのちを守る活動を強化するため、法人が一丸となって「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」に取り組む。
- (3) 職員の確保と育成に努める。

#### 2. 体力づくり:新病院・新施設構想を進め、安定した法人運営 を実現する。

- (1) 新病院・新施設構想を着実に遂行する。
- (2) 組織・運営体制を見直し、法令順守の徹底と経営の改善・安定化に努める。

#### 3. 仲間づくり:地域住民や団体と共感による協働の輪を広げる。

- (1) 地域に仕える活動を継続する。
- (2) 地域支援活動や奉仕活動をしている仲間と連携し、協働する。
- (3) ボランティアや寄付等の支援活動の拡大に努める。

### SAN-IKUKAI HOSPITAL

～外来棟西館解体に向けて～

## 「事務棟」、「玄関棟」の完成が近づいてまいりました。

「事務棟」は8月中旬の完成に向け鉄骨の組み立ては終え、現在は  
外壁や各階の床工事の最中です。通りから見ると7階建ての全体の大き  
さがあらためて確認できます。一方、昨年12月から着工し、工事を進めて  
いた「玄関棟」が一足先に完成間近。これまで建物を覆っていた囲いが  
外れ、遠目からでも入り口の様子や外壁の色合いなど建物全体が確認  
できるようになり、新しい賛育会病院の「顔」を覗えるようになりました。  
「玄関棟」は5月中旬に一部使用が開始される予定です。「事務棟」、「玄関  
棟」ともに今後も無事な完成を目指し工事を進めていきます。

引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



事務棟の様子



玄関棟の様子

## 社会福祉法人賛育会

### 赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト

## 「妊娠したかもSOS」について

賛育会「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」は、まず【匿名相談】の「妊娠したかもSOS」に取り組みます。週3日（月・水・金）の16:00～22:00の時間帯で、助産師・看護師・心理専門職等の資格を持つ専門相談員による電話相談を受け付けます。予期せぬ妊娠、または「妊娠したかも」等で不安やお悩みを抱えておられる方のための相談窓口です。

「全国妊娠SOSネットワーク」によれば、全国の「にんしんSOS相談窓口」は57ヵ所（病院による「にんしんSOS相談窓口」は大阪や熊本など少数）で、うち首都圏1都5県3市は11ヵ所です。相談者は、妊娠に関する知識に乏しく、予期しない妊娠や孤立出産のリスクを抱え、誰にも知られたく

ない妊婦や生活の困窮の問題を抱える人たちなどです。

賛育会病院の母子支援室の相談業務（月～金曜朝から夕及び土曜半日）は、従来通り継続します。病院母子支援室（2019年に設置）に寄せられた年間延べ相談件数は平均約1,700件で、相談内容は、DV・虐待・要保護・支援が必要な特定妊婦・生活困窮等、多岐にわたります。

賛育会は、週3日とはいえ夜間の「妊娠したかもSOS」の活動を通して、これまで以上に、目に見えない形で追い詰められ、苦難の中にある人々の「声なき声」と向き合うことが、母子の命と安全を守る「いのちのセーフティネット」への一助となることを祈っています。

（赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長 大江 浩）

## San-ikukai Hospital

## 賛育会病院に賀藤 均院長が就任しました。

2024年3月31日をもって高本眞一が当院院長を退任し、  
2024年4月1日より賀藤 均が後任として院長に就任いたしました。

### 🌸 就任のごあいさつ

賛育会病院 院長 賀藤 均



4月1日から院長に就任しました賀藤（かとう）と申します。私は小児科医で、東京大学医学部附属病院、国立成育医療研究センターにて、小児循環器専門医として30年以上勤務し、2022年に国立成育医療研究センター病院長を定年退職後、賛育会病院に副院長

として赴任しておりました。

太平地区建て替え及び立花地区新病院開設に向け計画が進行するなか、開院の基であった産科・小児科の更なる充実、また超高齢化社会への対応に向けて在宅医療の拡充など、地域の皆様のご期待に沿えるよう、安心して受けられる医療の充実に努力してまいります。

### 🌸 退任のごあいさつ

賛育会病院 高本眞一



私は2021年4月～2024年3月まで賛育会病院院長として患者中心の医療を大切にしながら頑張っていました。

私は東京大学医学部附属病院にて1997年から心臓外科医として患者中心の医療を行いましたが、当時は病院全体としては医師中心の医療が

主でありました。

賛育会病院も2021年以前は、医師中心の医療が主でありましたが、私が院長となってからは、患者中心の医療を大切にしながら頑張っていました。今後も患者さんを十分に理解し、「患者さんとともに生きる」賛育会病院であることを願っています。



## 賛育会フォトコンテスト2023 受賞作品紹介

フォトコンテスト2023を開催しました。各施設でのイベントの開催や外出の機会も増えつつある中で、たくさんの素敵な笑顔や場面がカメラに収められていました。「いき活きの瞬間の記録」52作品のエントリーがありました。各施設での投票によって3作品が選ばれました。



ゆずのいい匂いだなあ〜

ゆたかの  
高橋明子さん



さあ!! 宝島へ

佐倉デイサービス  
センター  
山西理奈さん

ほ〜い!

わしゃまだ100歳だに!  
東海清風園  
中山彩乃さん

## 賛育会創立106周年 ～記念礼拝・式典が開催されました～



2024年3月16日、賛育会創立106周年記念礼拝・式典がアルカディア市ヶ谷で開催され、来賓ならびに永年勤続表彰者、SEAP2023・フォトコンテスト2023受賞者など約90名が参加しました。礼拝に続いて行われた式典では、昨年天に召された駿河敬次郎氏(第6代理事長)と徳久俊彦氏(第9代理事長)を偲び、お二人の働きや思い出などの紹介があり、賛育会を支えてくださったことへ感謝するとともに、お二人の人物を知る良い機会となりました。また、永年勤続者表彰では、賛育会クリニックの宮澤明住院長から謝辞があり、令和元年東日本台風被害からの復興支援の感謝と、地域医療の充実に向けた決意が述べられました。

賛育会106年の歴史は多くの方に支えられた歴史であることに感謝する記念式典となりました。

賛育会 創立106周年記念礼拝・式



酒井牧師による記念礼拝



勤続30年表彰 宮澤明住院長



思い出を語る齊藤實氏



思い出を語る古田和彦氏

施設  
通信



## さんいく保育園：卒園式・入園式

卒園式



晴天に恵まれた3月2日に有明、3月9日に清澄白河の卒園式を行いました。有明では12名が3つの小学校に、清澄白河では15名が2つの小学校に巣立っていきました。当日は賛育会の各施設から心温まる贈り物やメッセージボードがたくさん届き、園児や保護者の皆さまも大変喜んでおられました。

賛育会の  
各施設から  
お祝いの一部を  
ご紹介



東海事業所のご利用者制作の色とりどりのコサージュ。卒園児たちの胸に輝いていました!



各施設から届いた心温まるメッセージボード

入園式



4月1日に入園式を行いました。園長からのお祝いメッセージがあり、3月に卒園した子どもたちの制作した折り紙のチューリップのメダル、メッセージ入りの式次第を入園の子どもたちにプレゼントしました。5歳児クラスのお兄さんお姉さんたちが園歌を披露し、お祝いムードに包まれた笑顔溢れる和やかな入園式を行うことができ、子どもたちに感謝でした。



卒園児の制作したメダルと、メッセージ入りの式次第





## メッセージ

賛育会は地域の教会の祈りと奉仕にも支えられています。長きにわたり賛育会を支えてくださっている、日本キリスト教団亀戸教会の堀川 樹牧師にメッセージをいただきました。

初めに、神は天地を創造された。(創世記1章1節)

人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。(創世記2章18節)



### 誰かと生きる時に

日本キリスト教団亀戸教会 牧師 堀川 樹

教会と聞くと礼拝をするところ、聖書が読まれ、讃美歌、お祈りなど何となくのイメージがあるかもしれません。キリスト教会は日曜日に礼拝をささげていますが、わざわざ日曜日に行っている理由はイエス・キリストが死から復活され、今も私たちと共にいてくださることを信じているからです。私たちを生かしてくださる神さまに感謝して、日曜日毎に教会に共に集まって礼拝をささげています。

神さまもイエスさまも目に見ることはできません。しかしいらっやいます。聖書によれば天地万物全てのものは、私たち人間も含めて神さまに造られたものです。神さまが全てのことのはじまりです。神さまが愛をもって私たちを造り、生かし、この地上に生きる意味を与えてくださっています。私たちが生きていること

に神さまとの関りが既にあるのです。私たちがただ気が付いていないだけなのかもしれません。

その生きる意味は独りではなかなか発見することができません。人は独りでいるのは良くない、彼に合う助ける者を造ろうと神さまが意思され、造られた存在がいるのです。賛育会がずっと掲げ、土台としてきた「隣人愛」とその精神。あなたと共に生きる、生きたいと思っている「誰か」がそこにはいます。誰かと共に生きる時にあなたの生きる意味も深まります。その方は神さまがそこに備えてくださった小さなイエスさまなのです。



## INFORMATION

### 能登半島地震 災害支援活動報告

1月29日～2月2日までの間、石川県能登町の福祉避難所で支援活動を行いました。この支援活動は、長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会から賛育会への要請に応じたものです。私は、第6クール目の福祉支援チームの一員として参加しました。前任の職員からの引継ぎがあり、現地の状況を把握することができ助かりました。長野市から能登町までの移動は車で約7時間かかり、普段よりも2時間以上の時間を要しました。能登半島を北上するにつれ崖崩れや倒壊家屋が多く、大地震の被害に目を覆いたくなる状況でした。

支援期間中、福祉避難所には11名の高齢者が生活していました。福祉支援チームに加え、近隣クリニックなどの医師や看護師、介護職員の支援もあり、各専門職と連携を図りながら生活支援を行いました。90代のAさんは自宅が一部倒壊し、福祉避難所への避難が必要でしたが不安を感じていました。私たちはAさんの気持ちを配慮し、傾聴と適度な距離を保ちながら避難所生活の支援にあたりました。

福祉支援チームの活動は第24クールまで続き3月27日に閉所されたようです。東京の中央区で福祉避難所の役割を担っている私たちの施設でも今回の貴重な経験を活かしていきたいと考えています。まだまだ被災地への支援は必要なため、微力ながら私ができることをこれからも継続的に行っていきたいと思います。

(マイホーム新川 生活相談課 藤森 修)



災害支援用の  
トレーラーハウス



避難所の段ボールベッドの様子



### 賛育会へのご支援のお願い

賛育会では、いのちの授業や子ども食堂、高齢者の居場所づくりなど、60を超える様々な地域支援活動を行っています。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

詳しくはこちらをご覧ください

賛育会ホームページ  
「賛育会へのご支援のお願い」

(<https://www.san-ikukai.or.jp/participate/>)



## San-iku 通信

San-iku通信 Vol.40 2024年 春号

編集：賛育会法人事務局

発行人：中村 基信

発行所：社会福祉法人 賛育会

印刷：(有)エースプリント (20240426-6650)

社会福祉法人 賛育会

〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8

URL <https://www.san-ikukai.or.jp/>

お問い合わせ

TEL:03-3622-7614

